

## 臨床免疫学部門

### Department of Clinical Immunology

生体防御医学研究所に改組されてからも当部門の研究方針には特に変更はみられていない。すなわち主としてリウマチ，膠原病を対象としてその病因，病態ならびに治療法に関する研究を継続して行っている。その他にはリウマチ疾患のリハビリテーションの一環として温泉治療に関する研究も行っている。リウマチ疾患の中，具体的には慢性関節リウマチ，シェーグレン症候群，混合性結合組織病が目下の重点課題である。

人事面では昭和57年4月1日に大塚栄治研究生が大分日赤より帰学し，代りに大石省一郎研修医が同病院に出張した。5月1日にはイランの Dr. Najmedine Ahmadzadeh が訪問研究者として，また5月10日には東洋醸造医薬品研究所より中神啓仁氏が研究生として入局した。6月1日には橋永邦彦助手が開業のため退職，織部元広助手が国立別府病院へ出張，代りに立川啓二研究生が助手として帰学，田原亨氏が福大医学部を卒業して研修医として入局。福大医学部健康管理科の西園久徳研修医が1年間の予定で研修のため入局した。

昭和58年1月中神啓仁氏は仕事を終え研究生を辞し帰社した。2月4日橋永邦彦研究生学位取得。4月1日には熊大体研より藤井郁夫氏が医員として入局，また野中史郎研修医が大分県立病院より研修医として入局した。5月31日西園久徳研修医は1年間の研修を終え福大に帰学した。6月1日内田悦慈氏が九大第三内科より1年間の予定で研修医として入局した。7月16日延永正教授が日本リウマチ協会薬効検定委員長に就任。8月1日吉岡和則研修医が国立別府病院に出張した。

昭和59年1月14日安田正之助手，江崎一子助手学位取得。3月3日安田正之助手が日本リウマチ学会フェローとしてフィンランド (Prof. Linder) に留学，引き続き米国に留学した。

4月1日織部元広氏国立別府病院より助手として帰学，代りに田原亨研修医が同病院に出張。大石省一郎氏が 大分日赤より医員として帰学，代りに田原享研修医が同病院に出張した。5月23日神宮政男講師は日本リウマチ学会評議員に任命された。5月31日内田悦慈研修医は1年間の研修を終え九大第三内科に帰学。6月4日吉岡和則氏国立別府病院より医員として帰学，代りに吉田史郎医員が同病院に出張した。6月14日徳松誠氏九大第三内科より研修医として1年間の予定で入局。6月30日延永正教授は日本リウマチ学会幹事ならびに日本リウマチ協会理事に選出された。12月17日生野英祐氏福大整形より1年間の予定で当科研修医となった。

昭和60年2月1日織部元広助手学位取得。3月31日本松利治助教授，福岡県立嘉穂病院長就任のため退職した。5月31日徳松誠氏研修を終え九大第三内科に帰学。代って6月1日より袖布祐二氏が同内科より研修医として1年間の予定で入局。同じく小宅和俊氏が金沢医大を卒業して入局した。なお，6月1日付で神宮政男講師が助教授に昇任した。7月5日織部和宏氏(大

分日赤内科部長) 学位取得。8月31日轟木峻助手開業のため退職。12月16日生野英祐研修医1年間の研修を終えて福大に帰学。

昭和61年3月31日大石省一郎助手開業のため退職。また高橋光氏は国立別府病院を辞して福岡県立嘉穂病院に転じた。

学会活動としては昭和57年8月21日の第12回尿酸研究会を延永正教授が主宰した。59年1月22～27日にバンコクにおいて開催された第5回東南アジア太平洋リウマチ学会に延永正教授が出席講演した。同年7月26～30日に東京で開催された第10回国際生気象学会にも延永正教授が出席し講演した。10月6～13日京都で開催された第17回国際内科学会には神宮政男講師が出席し講演した。11月16～17日に延永正教授はリウマチ協会薬効検定委員長として第3回リウマチ薬効検定シンポジウムを東京で主宰した。また昭和60年5月9～10日には第29回日本リウマチ学会を福岡にて主宰した。昭和61年3月19～22日モンテカルロにて開催された第2回世界炎症学会には延永正教授が出席して講演した。

#### A. 慢性関節リウマチに関する研究(延永正, 神宮政男, 江崎一子, 織部元廣, 轟木峻, 友岡和久, ナジメジン・アハマザデー)

慢性関節リウマチ(RA)に関しては昭和48年以来厚生省の悪性関節リウマチ(MRA)に関する調査研究班に加わったこともあって血管炎の発症機序に関する研究を行っている。

血管炎の発症には血管内皮細胞の障害が必要と思われるが, 本細胞には少なくともFcならばC3bレセプターはないことが確かめられた。従って免疫複合体(IC)が直接これらのレセプターを介して内皮細胞に結合する可能性はないものと思われる。一方中膜の平滑筋細胞にはC1qレセプターがあることが確かめられた。従ってICは何らかの機転で内皮細胞が障害されると, その隙間を通して中膜の平滑筋細胞に達して, そこに結合することが考えられる。

血中アルカリ性リボ核酸ラーゼ(A $\ell$ -RNase)は長い間臍由来と考えられていたが, 血管炎の患者でも増加することが確認された。そこで各種臓器についてその含量を測定したところ臍とともに血管に多く含まれることが明らかとなった。なかでも内皮細胞中の含量が高く, 血管炎における血中A $\ell$ -RNaseの増加は血管障害による同酵素の血中への逸脱による可能性が考えられた。よってphosphocelluloseカラムを用いてA $\ell$ -RNaseのisozyme分画を検討したところ血管炎患者の血清A $\ell$ -RNase isozyme patternと動脈のA $\ell$ -RNase isozyme patternが極めて類似し, 同酵素が血管に由来することが推定された。さらに臍帯静脈内皮細胞を培養し, これに血管炎患者の血清を添加したところA $\ell$ -RNaseの遊離がみられ, 上記推定の正しいことが裏付けられた。以上より血中A $\ell$ -RNaseのoriginとして血管は重要であると思われる。

現在厚生省の本MRA研究班は名前を変えて系統的脈管障害に関する調査研究班(班長三島好雄, 班員延永正)となっている。

#### B. シェーグレン症候群に関する研究(立川啓二, 大塚栄治, 大石省一郎, 江崎一子, 延永正)

シェーグレン症候群に関する研究は昭和53年以来のもので、動機はやはり厚生省研究班（班長大藤眞，班員延永正）に加わったことである。

シェーグレン症候群（SjS）は混合性結合組織病（MCTD）と深い関係があり，MCTDの60～70%に唾液腺造影の異常を認める。また MCTD に特異性の高い RNP 抗体陽性者の80%近くに乾燥病態が認められ，両者は有意に associate することが知られている。さらにリウマチ因子（RF）の陽性率も両者ほぼ80%で差がない。しかし RF titer は SjS が有意に高値であり，培養末梢血リンパ球による IgMRF 産生にも差がみられた。すなわち MCTD においては spontaneous な IgMRF 産生がみられたのに対して SjS ではみられず，しかも PWM で刺激してもなお産生がみられなかったからである。SjS における RF の病因的意義に関しては，I C への関与が少ないこと，補体価と関連しないことなどから，RA に比べるとその役割は小さいのではないかと思われる。

#### C. 混合性結合組織病に関する研究（野中史郎，安田正之，江崎一子，延永正）

混合性結合組織病については昭和57年に厚生省研究班（班長粕川礼司，班員延永正）が組織され，それ以来本症の臨床像，免疫異常について研究をすすめている。

われわれは MCTD の疾患単位としての独立性を認めた上で，その診断基準について検討した。その結果 Sm 抗体陽性例ならびに既存の膠原病の典型例は除くべきであることが示された。

MCTD の免疫異常ならびに一般検査成績の異常は一部 SLE や PSS, PM/DM と似た所見を示しながら，そのいずれとも異なるパターンを示し，本症の独立性がこの面からも支持された。例えば RF の陽性率は上記3疾患のいずれよりも高く，GOT, LDH, CPK などの筋原性酵素は PM/DM より低いものの SLE や PSS よりも高く， $\gamma$ グロブリンは SLE, PM/DM よりも高く，CH50, C 3, C 4 は SLE より高値，I C は SLE とほぼ同様に高値を示した。

RF 陽性の MCTD と陰性のそれとの間には臨床症状，検査成績の上で有意の差は見出されていないので，本症の RF にも病因的意義は少ないのではないかと思われるが，この点はさらに症例を増して検討する必要がある。

#### D. 温泉治療に関する研究（吉田史郎，吉岡和則，藤井郁夫，延永正）

温泉治療学に関しては寒の地獄泉の研究を行ったが，RA 患者に対してはこのような冷泉（13℃）でも温泉に勝るとも劣らない治療効果を有することが明らかとなった。その際血中や尿中の副腎皮質ホルモン量には大きな変動がみられず，髄質ホルモンであるカテコラミンの中アドレナリンが血中，尿中とも有意に上昇した。このことから交感神経の刺激が作用機序の主要な部分を占めることが示唆された。このことは心電図 R・R 間隔の測定による自律神経機能検査によっても確められた。すなわち冷浴によって CV 値は低下し，交感神経の緊張が亢進したことを示唆した。一方温泉浴では CV 値の変動は一定せず増加するものも減少するものもみ

られた。

RA では自律神経機能の異常を示すものが多く、CV 値は年令不相応に低値を示した。しかしこのような患者に温泉浴を繰り返すと CV 値は次第に上昇し、1 か月後にはほぼ正常値に復するものが多くみられた。そしてその後は温泉浴を続けても CV 値は変動せず、温泉連浴の効果は約 1 か月で target point に達することが改めて証明され、従来の説の正しさが裏付けられた。

## E. 診療面（全員）

診療面では入院、外来とも RA を中心とした膠原病やリウマチ性疾患の診療を主体に行っているが、特に新しい薬物療法、血漿交換療法、リンパ球除去法などを試みてその有用性を検討している。

## 原著論文

延永 正, 江崎一子: 悪性関節リウマチにおける immune complex とその補体消費能. 厚生省特定疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班, 1981年度研究報告書, pp31~36, 1982.

延永 正, 神宮政男, 轟木 峻: 活性酸素による炎症に関する検討. 厚生省特定疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班, 1981年度研究報告書, pp98~101, 1982.

延永 正, 吉田史郎, 後藤文雄: RA のリハビリテーションにおける寒冷刺激療法の効果, 第 3 報, 長期試験の結果補遺. 厚生省特定疾患, 神経筋疾患のリハビリテーションに関する研究, 昭和56年度実績報告書, pp83~88, 1982.

江崎一子, 延永 正: シェーグレン症候群における可溶性免疫複合体と補体消費能について. 厚生省特定疾患, 自己免疫疾患調査研究班, 昭和56年度研究業績(追遺), pp90~93, 1982.

延永 正, 吉田史郎: 慢性関節リウマチに対する寒の地獄泉の影響. 大分県温泉調査研究会報告, 33: 60~93, 1982.

江崎一子, 立川啓二, 延永 正: 多核白血球リゾーム分画の起炎作用. 炎症, 2: 137~140, 1982.

神宮政男, 織部元廣, 轟木 峻, 他: SLE 患者血清中の Superoxide ( $O_2^-$ ) 遊離刺激因子. リウマチ, 22, 365~370, 1982.

轟木 峻, 神宮政男, 立川啓二, 他: RA 患者関節液および RA 血清因子による関節液好中球および末梢血好中球の活性酸素遊離. 炎症, 2: 373~374, 1982.

神宮政男, 轟木 峻, 織部元廣, 他: 活性酸素による炎症とその機序に関する検討. 炎症, 2: 367~368, 1982.

吉田史郎, 織部元廣, 橋永邦彦, 他: Sjögren 症候群の肝障害. 臨床と研究, 59: 4057~4059, 1982.

江崎一子, 延永 正: シェーグレン病における Antiglobulin. 日本臨床, 41: 201~203, 1983.

延永 正, 轟木 峻, 神宮政男, 他: RA の関節炎と活性酸素—関節液の  $O_2^-$  の産生能—. 厚生省特定疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班, 1982年度研究報告書, pp116~119, 1983.

延永 正, 中神啓仁, 神宮政男, 他: 活性酸素による内皮細胞障害と Scavenger の影響. 厚生省特定

- 疾患, 系統的血管病変に関する調査研究班, 1982年度研究報告書, pp110~115, 1983.
- 延永 正, 友岡和久: 抗 RNP 抗体単独高値例の臨床的検討. 厚生省特定疾患, 混合性結合組織病調査研究班, 昭和57年度研究報告書, pp86~90, 1983.
- 吉田史郎, 延永 正: 当科におけるリウマチ疾患入院患者の統計的観察. 温研紀要, 34: 152~157, 1983.
- 延永 正, 織部元廣, 友岡和久, 他: 膠原病の消化器病変, III. シェーグレン症候群. 温研紀要, 34: 146~151, 1983.
- 織部和宏, 安田正之, 江崎一子, 他: シェーグレン病と circulating immune complex. 日本臨床, 41: 217~219, 1983.
- 轟木 峻, 橋永邦彦, 神宮政男, 他: Seronegative polyarthritis の 1 例. 九州リウマチ, 2: 25~28, 1983.
- 大石省一郎, 轟木 峻, 延永 正: 診断困難であった関節炎の 3 症例—非典型的 RA 2 例とシェーグレン病 1 例—. 九州リウマチ, 2: 149~155, 1983.
- 高橋 光, 江崎一子, 橋永邦彦, 他: 高クリオグロブリン血症を伴ったシェーグレン症候群の一例. 九州リウマチ, 2: 160~164, 1983.
- 安田正之, 酒井好古, 延永 正, 他: 血液疾患における血中免疫複合体の臨床的意義—Clq deviation 法, 抗抗体法による検索—. 臨床血液, 24: 448~455, 1983.
- 江崎一子, 延永 正: LE テスト試薬を用いた抗核抗体の検出—LE テスト試薬の比較検討—. 医学と薬学, 9: 1587~1591, 1983.
- 江崎一子: 悪性関節リウマチの血中免疫複合体. リウマチ, 23: 327~339, 1983.
- 安田正之: 結合組織疾患における血中免疫複合物の臨床的意義—Clq deviation 法, 抗抗体法および polyethylene glycol 沈澱法による検索—. リウマチ, 23: 315~326, 1983.
- 延永 正, 安田正之, 立川啓二, 他: 膠原病における免疫複合体の臨床的意義, 測定法と疾患の関係. 日内会誌, 72: 62~71, 1983.
- 吉岡和則, 立川啓二, 延永 正: CCA を試用したシェーグレン症候群の 2 例. 炎症, 3: 321~322, 1983.
- 中神啓仁, 神宮政男, 延永 正, 他: 活性酸素による培養ヒト血管内皮細胞の傷害. 炎症, 3: 367~368, 1983.
- 神宮政男, 立川啓二, Ahmadzadeh, N., 他: 好中球によるヒト臍帯静脈平滑筋細胞の傷害機序と免疫学的機序. 炎症, 3: 369~370, 1983.
- 延永 正, 織部元廣, 立川啓二, 他: 関節リウマチの治療—殊に悪性関節リウマチについて—第21回日本医学会総会誌, 大阪, pp.2486~2489, 1983.
- 本松利治, 高橋 光, 織部和宏: 低カリウム血症を伴った高血圧症の 2 例. 大分県内科医会誌, 13: 9~12, 1983.
- 延永 正, 他: 最近 5 年間に於ける薬物性肝障害 272 例の集計. 肝胆膵, 7: 783~796, 1983.
- Shingu, M., M, Oribe., T, Todoroki., et al : Serum factors from patients with systemic lupus erythematosus, enhancing superoxide generation by normal neutrophils. J. Inv. Derm., 81 :

212~215, 1983.

延永 正：術前術後の内科的管理—RAの手術とリハビリテーション—. 日関外誌, 2: 419~422, 1983.

江崎一子, 延永 正：レーザーネフェロメトリーによるリウマチ因子定量法の臨床的有用性. 臨床検査, 28: 205~207, 1984.

織部元廣, 池田正仁, 古賀俊六, 他：無症候性胃潰瘍穿孔および出血性胃, 十二指腸潰瘍にて死亡した悪性関節リウマチの2剖検例. 九州リウマチ, 3: 29~35, 1984.

高橋 光, 本松利治, 織部元廣, 他：リウマチ患者におけるステロイド治療の副腎皮質予備能におよぼす影響について. 九州リウマチ, 3: 49~52, 1984.

轟木 峻, 立川啓二, 神宮政男, 他：環軸関節炎で発症したと思われる初期慢性関節リウマチの1症例. 九州リウマチ, 3: 158~161, 1984.

立川啓二, 轟木 峻, 神宮政男, 他：Seronegative polyarthritisの1例. 九州リウマチ, 3: 162~165, 1984.

吉岡和則, 織部元廣, 高橋 光, 他：急死した慢性リウマチ4症例の検討. 九州リウマチ, 3: 166~169, 1984.

大塚栄治, 立川啓二, 延永 正：筋症状の乏しい皮膚筋炎の1例. 九州リウマチ, 3: 170~175, 1984.  
織部元廣, 酒井敏夫, 溝辺薫, 他：慢性関節リウマチにおける脾臓の大きさ—腹部Echoによる検討—. 九州リウマチ, 3: 176~180, 1984.

大塚栄治, 吉田史郎, 延永 正：慢性甲状腺炎に肝硬変を合併した1例. 臨床と研究, 61: 893~896, 1984.

延永 正, 神宮政男：好中球依存性培養平滑筋細胞傷害の機序. 厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班, 1983年度研究報告書, pp76~81, 1984.

延永 正, 織部元廣, 神宮政男：血管障害と血清アルカリ性 Ribonuclease. 厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班, 1983年度研究報告書, pp82~85, 1984.

延永 正, 安田正之, 友岡和久：Mixed Connective Tissue Diseaseの診断基準. 厚生省特定疾患混合性結合組織病調査研究班, 昭和58年度研究報告書, pp69~71, 1984.

延永 正, 野中史郎, 安田正之, 他：Mixed Connective Tissue Diseaseにおける臨床検査成績の特徴. 厚生省特定疾患混合性結合組織病調査研究班, 昭和58年度研究報告書, pp265~270, 1984.

延永 正, 吉岡和則：MCTDよりSLEへ移行した1症例. 厚生省特定疾患混合性結合組織病調査研究班, 昭和58年度研究報告書, pp271~274, 1984.

吉田史郎, 延永 正：非ステロイド性抗炎症例による肝障害. 臨床と研究, 61: 1929~1930, 1984.

Motomatsu, T., H, Takahashi., H, Ibayashi ., et al : Human plasma proopiomelanocortin N-terminal peptide and adrenocorticotropin : Circadian rhythm, dexamethasone suppression, and corticotropin-releasing hormone stimulation. J. Clin. Endocrinol. Metab., 59: 495~498, 1984.

Nobunaga, M., K, Oribe., S, Ohishi : A case of scleroderma with Sjögren's syndrome developed after mammoplasty. Clin. Rheum., 3: 375~379, 1984.

- 延永 正, 吉田史郎: 寒冷浴と内分泌機能. 日温気物医誌, 48: 21~24, 1984.
- Shingu, M., M, Nobunaga: Chemotactic activity generated in human serum from the fifth component of complement by hydrogen peroxide. Amer. J. Path., 117: 201~206, 1984.
- Shingu, M., M, Nobunaga., K, Yoshida: Human umbilical cord vein smooth muscle cells lack receptors for C3b and the Fc portion of immunoglobulin G. Clin. Immunol. Immunopath., 33: 282~286, 1984.
- 織部元廣, 延永 正, 宗像雅丈, 他: 不明熱の1例—放射菌症—. 大分県内科医会誌, 14: 13~18, 1984.
- 藤井郁夫, 高橋 光, 安田正之, 他: 多発性対称性脂肪症(Madelung病)の1例. 内科, 55: 563~566, 1985.
- 吉岡和則, 織部元廣, 延永 正: Sjören 症候群における唾液腺シンチグラム, 小唾液腺組織像並びに唾液腺造影像の対比. 九州リウマチ, 4: 64~68, 1985.
- 大塚栄治, 轟木 峻, 延永 正: 慢性関節リウマチ, 悪性関節リウマチに合併する消化性潰瘍の検討. 九州リウマチ, 4: 72~77, 1985.
- 織部元廣, 延永 正: Probable RA 追跡調査. 九州リウマチ, 4: 83~87, 1985.
- 五十嵐三都男, 小川暢也, 延永 正: 慢性関節リウマチに対するCS-600 (loxoprofen sodium) の薬効評価. リウマチ, 25(1): 61~72, 1985.
- 織部和宏: Sjögren 症候群の腭病変. 福岡医学雑誌, 76(3): 55~66, 3, 1985.
- 藤井郁夫, 大塚栄治, 延永 正: 慢性関節リウマチの自律神経機能障害に及ぼす温泉浴の影響, 大分県温泉調査研究会報告. 36: 34~37, 3, 1985.
- Yasuda, M., M, Nobunaga: A Case of Infection of Yersinia pseudotuberculosis Associated with Complement Abnormalities. 福岡医学雑誌, 76(7): 399~405, 7, 1985.
- Shingu, M., Yoshioka, K., Nobunaga, M: Human vascular smooth muscle cells and endothelial cells lack catalase activity and are susceptible to hydrogen peroxide. 9(3): 309~320, 1985.
- 田原 亨, 安田正之, 江崎一子: C 9 欠損を伴った慢性関節リウマチの1例. 臨床免疫, 17(6): 600~604, 1985.
- 江崎一子, 延永 正: リウマチ因子の血清中における存在形態. 臨床免疫, 17(11): 993~996, 1985.
- 神宮政男, 轟木 峻, 延永 正: 他の自己抗体との共存における臨床的意義. 17(11): 1037~1044, 1985.
- 神宮政男, 轟木 峻, 延永 正: 活性酸素. リウマチ, 25(6): 452~455, 1, 1986.
- 延永 正: 慢性関節リウマチ病像の変遷. リウマチ, 26(1): 35~40, 3, 1986.
- 総 説**
- 延永 正: 温泉療法の適応と禁忌. 臨床成人病, 12: 967~972, 1982.
- 延永 正: 神経痛. モダンメディスン, 11: 108~110, 1982.
- 延永 正, 吉田史郎: 慢性関節リウマチの診断基準と病態整理. 理学療法と作業療法, 16: 809~816, 1982.
- 江崎一子, 延永 正: PEG 沈殿蛋白による補体消費能試験. 免疫と疾患, 5: 743~750, 1983.
- 延永 正: ラドンの効能. 日本医事新報, No.3105: 123~124, 1983.

- 延永 正, 織部元廣: 乾燥症候群を伴う膠原病の特徴—慢性関節リウマチ—. 免疫と疾患, 6 : 443~448, 1983.
- 織部元廣, 神宮政男, 延永 正: 臓器症状—外分泌腺障害—. 免疫と疾患, 6 : 415~419, 1983.
- 延永 正: リハビリテーションの実際と温泉療法. からだの科学, 114 : 97~103, 1983.
- 延永 正: リウマチ性疾患の温泉治療. 総合臨床, 33 : 209~210, 1984.
- 延永 正: 関節リウマチとロベンザリト. ファルマシア, 20 : 158~161, 1984.
- 延永 正: リウマチ性疾患の温泉治療. 総合臨床, 33 : 209~210, 1984.
- 延永 正, 江崎一子, 安田正之: 免疫グロブリン. Therapeutic Research, 1 : 6~11, 1984.
- 延永 正: 選択的 PG 合成抑制剤. Prog. Med., 4 : 1402~1404, 1984.
- 延永 正, 水島 裕, 柏崎禎夫: 抗炎症剤の将来. Prog. Med., 4 : 1437~1448, 1984.
- 神宮政男, 延永 正: 免疫反応と活性酸素—免疫学的機序による組織障害と活性酸素—. 最新医学, 39 : 1342~1357, 1984.
- 中神啓仁, 神宮政男, 延永 正: 活性酸素による血管内皮細胞の傷害 (炎症と関連して). 最新医学, 39 : 1334~1341, 1984.
- 延永 正, 吉田史郎: リウマチ—低温療法. 治療, 66 : 1825~1830, 1984.
- 延永 正: 非ステロイド抗炎症薬. 臨床医, 10 : 1899~1902, 1984.
- 延永 正: サリチル酸系. 臨床医, 10 : 1903~1909, 1984.
- 延永 正: リウマチの関節外症状の機序. 総合臨床, 33 : 2251~2256, 1984.
- 本松利治, 高橋 光, 延永 正: 副腎皮質ホルモン治療. 大分県内科医会誌, 14 : 33~35, 1984.
- 延永 正, 大塚栄治: 非ステロイド系抗炎症剤療法「老人投与の問題点」. 臨床医薬情報, 4 : 82~85, 1985.
- 神宮政男, 轟木 峻, 立川啓二, 他: 関節トピック, 滑膜細胞の増殖と傷害の機序. 関節外科, 4 : 333~337, 1985.
- 延永 正, 和田秀夫: 血沈. 臨床と研究, 62 : 702~704, 1985.
- 延永 正: リウマチ性疾患と気象・季節. からだの科学, 123 : 75~80, 5, 1985.
- 本松利治, 高橋 光, 延永 正: ステロイド療法時. 臨床と研究, 62(5) : 1451~1454, 5, 1985.
- 延永 正: 膠原病の内臓病変. 総合臨床, 34(7) : 1377~1378, 7, 1985.
- 延永 正: 今日の主題=抗炎症剤の進歩と使い方. 非ステロイド剤の使い方・副作用, 非ステロイド剤剤の功罪. medicine, 22(7) : 1228~1229, 7, 1985.
- 神宮政男, 延永 正: 活性酸素. 医学と薬学, 14(1) : 17~22, 7, 1985.
- 延永 正: 慢性関節リウマチとその治療. 臨床と研究, 62(8) : 2578~2583, 8, 1985.
- 延永 正: リウマチ因子. 日本臨床免疫学会会誌, 8(4) : 173~183, 8, 1985.
- 延永 正: リハビリテーション. 現代医療, 17 : 1859~1864, 8, 1985.
- 神宮政男, 延永 正: 疾患の成り立ちと最近の捉えかた. RA の炎症とケミカルメディエーター. medical Practice, 3(1) : 50~54, 1986.
- 神宮政男, 延永 正: 理学療法とリハビリテーション. 臨床看護, 12(1) : 121~126, 1, 1986.

## 著 書

- 延永 正：関節外症状，問題となる合併症，悪性関節リウマチ．リウマチとその周辺疾患図説，整形外科講座10．メジカルビュー社，東京，pp28～35，1982．
- 延永 正：原因不明熱，低温療法，皮下結節，医科学大事典14巻，33巻，39巻，講談社，東京，pp85～86，90，117～118，1982．
- 延永 正：多発リウマチ性筋痛．今日の治療指針，26：515～516，医学書院，東京，1984．
- 延永 正：慢性関節リウマチ．今日の内科学，pp1760～1767，医歯薬出版，東京，1984．
- 延永 正：理学的療法．最新治療指針と処方集，太道学館，福岡，pp56～60，1984．
- 延永 正：抗炎症薬の臨床薬理4，フルルビプロフェン Flurbiprofen．抗炎症薬—基礎と臨床—，医薬ジャーナル，大阪，pp222～224，1985．
- 延永 正：乾癬性関節炎 Psoriatic Arthritis．今日の診断指針，医学書院，東京，pp1004～1006，1985．
- 延永 正，神宮政男：培養血管平滑筋細胞の Clq レセプターとその機能．厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班，1984年度研究報告書，67～69，3，1985．
- 延永 正，江崎一子，本松利治：抗リウマチ因子活性を示した RA 血清について．厚生省特定疾患系統的血管病変に関する調査研究班，1984年度研究報告書，55～60，3，1985．
- 延永 正，野中史郎，立川啓二：MCTD のリンパ球サブセットと機能．厚生省特定疾患混合性結合組織病調査研究班，昭和59年度研究報告書，223～229，3，1985．
- 延永 正，轟木 峻：リウマチ性疾患，RA・Felty 症候群・Caplan 症候群．臨床検査，関節リウマチの検査，金原出版，東京，pp209～218，5，1985．
- 織部元廣，延永 正：RA の薬効評価における ADL の評価項目について．免疫調節剤の薬効評価法，日本リウマチ協会薬効検定委員会，永井書店，大阪，pp147～148，1985．

## 短 速 報

- Shingu, M., M, Yasuda., M, Nobunaga : A case of palindromic rheumatism suggestive of immune complex disease. J. Rheumatology, 9 : 480～481, 1982.
- 延永 正：慢性関節リウマチと貼付剤．Therapeutic Research, 3(6) : 1101, 7, 1985.
- 延永 正：第29回日本リウマチ学会総会から．日本医師会雑誌，94(3) : 442～443, 8, 1985.

## 学会発表

- 延永 正，吉田史郎：シンポジウム「温泉治療処方—その基礎と実際」リウマチ性疾患．日温気物医誌，46 : 23～25，1982．
- 高橋 光，江崎一子，織部元廣，他：高クリオグロブリン血症を呈し，合併する膠原病に移行を示した Sjögren 症候群の1例．第26回日本リウマチ学会総会，岡山，1982，5，14～15．
- 轟木 峻，立川啓二，友岡和久，他：Polymyalgia Rheumatica 12例の検討．第26回日本リウマチ学会総会，岡山，1982，5，14～15．
- 江崎一子，延永 正：悪性関節リウマチにおける immune complex と補体消費量．第26回日本リウマチ学会総会，岡山，1982，5，14～15．

- 織部元廣, 神宮政男, 江崎一子, 他: 悪性関節リウマチにおける血清アルカリ性 RNA 分解酵素増加の機序に関する検討—RNA との関係並びに臓器別 RNase—. 第26回日本リウマチ学会総会, 岡山, 1982, 5, 14~15.
- 大石省一郎, 江崎一子, 延永 正: 慢性関節リウマチにおける血清粘度の臨床的意義. 第26回日本リウマチ学会総会, 岡山, 1982, 5, 14~15.
- 立川啓二, 織部元廣, 轟木 峻, 他: 慢性関節リウマチ患者の PHA リンパ球幼若化能に及ぼすプレドニゾロンの影響について. 第26回日本リウマチ学会総会, 岡山, 1982, 5, 14~15.
- 吉田史郎, 延永 正: 慢性関節リウマチに対する寒の地獄泉入浴の効果(第2報). 第47回日本温泉気候物理医学会, 伊東, 1982, 5, 26~27.
- 延永 正: シンポジウム「温泉治療処方—その基礎と実際, リウマチ性疾患」. 第47回日本温泉気候物理医学会, 伊東, 1982, 5, 26~27.
- 高橋 光, 本松利治, 延永 正: 絶食, 絶水のラット視床下部および血中  $\beta$ -endorphin に及ぼす効果. 第55回日本内分泌学会総会, 東京, 1982, 5, 28~30.
- 吉田史郎, 延永 正: 慢性関節リウマチにおける局所寒冷刺激療法の意義. 第19回日本リハビリテーション医学会総会, 東京, 1982, 6, 11~12.
- 神宮政男, 轟木 峻, 織部元廣, 他: 活性酸素による炎症とその機序に関する検討. 第3回日本炎症学会, 東京, 1982, 7, 16~17.
- 轟木 峻, 神宮政男, 立川啓二, 他: RA 患者関節液および RA 血清因子による関節液好中球および末梢血好中球の活性酸素遊離. 第3回日本炎症学会, 東京, 1982, 7, 16~17.
- 織部元廣, 神宮政男, 安田正之, 他: 血管由来の RNase に関する検討. 第3回日本炎症学会, 東京, 1982, 7, 16~17.
- 大塚栄治, 織部元廣, 本松利治, 他: 小腸穿孔をきたした悪性関節リウマチの2例. 第39回日本消化器病学会九州地方会, 福岡, 1982, 7, 16~17.
- 神宮政男, 轟木 峻, 大石省一郎, 他: 活性酸素産生におよぼすアロプリノールの影響. 第12回尿酸研究会, 大阪, 1982, 8, 21.
- 織部元廣, 延永 正, 平尾修恭: 長期間観察し得た von Gierke 病の1例. 第12回尿酸研究会, 大阪, 1982, 8, 21.
- 吉岡和則, 轟木 峻, 安田正之, 他: 多発性骨髄腫にアミロイドーシスを合併し手根管症候群を呈した1症例. 第178回日本内科学会九州地方会, 久留米, 1982, 9, 25.
- 田原 亨, 安田正之, 高橋 光, 他: 抗 E 抗体による溶血と思われる1例. 第178回日本内科学会九州地方会, 久留米, 1982, 9, 25.
- 大塚栄治, 延永 正, 立川啓二: 筋症状を伴わない皮膚筋炎の1例. 第21回九州リウマチ研究会, 福岡, 1982, 9, 25.
- 立川啓二, 延永 正, 大塚栄治: 当科における偽痛風の検討. 第21回九州リウマチ研究会, 福岡, 1982, 9, 25.
- 友岡和久, 安田正之, 酒井好古, 他: RA および MRA における補体系の検討. 第32回日本アレルギー学会総会, 岡山, 1982, 10, 7~9.

- 高橋 光, 本松利治, 延永 正: 摂食, 摂水における視床下部 Methionine-Enkephalin の変動について. 第9回日本内分泌学会神経内分泌分科会, 京都, 1982, 10, 27.
- 安田正之, 江崎一子, 伊藤喜久, 他:  $\mu$  鎖病と思われる1例. 第24回日本臨床血液学会総会, 出雲, 1982, 10, 28~30.
- 大塚栄治, 吉岡和則, 西園久徳, 他: 筋症状の乏しい皮膚筋炎の1例. 第179回日本内科学会九州地方会, 大分, 1982, 11, 21.
- 田原 亨, 高橋 光, 立川啓二, 他: Polymyositis と肺腺維症を合併した RA の1例. 第179回日本内科学会九州地方会, 大分, 1982, 11, 21.
- Nobunaga, M: Panel discussion: The comparative pharmacologic effects of nonsteroidal anti-inflammatory agents on the inflammatory process: Are there meaningful differences?. International symposium on the management of the arthritides, 京都, 1982, 11, 21~22.
- 延永 正: シンポジウム「生体防御」炎症反応. 人類働態学研究会, 西日本地方会第8回大会, 別府, 1982, 12, 3~4.
- 吉岡和則, 友岡和久: アミロイドーシスを合併した RA 例の検討. 第22回九州リウマチ研究会, 長崎, 1983, 2, 12.
- 織部元廣, 池田正仁, 古賀俊六, 他: 胃潰瘍穿孔及び十二指腸潰瘍穿孔により死亡した悪性関節リウマチの2培検例. 第22回九州リウマチ研究会, 長崎, 1983, 2, 12.
- 立川啓二, 神宮政男, 安田正之, 他: 膠原病におけるリンパ球サブセットの検討. 第22回九州リウマチ研究会, 長崎, 1983, 2, 12.
- 西園久徳, 立川啓二, 轟木 峻, 他: パルス療法を行った強症症, 多発性筋炎症, Sjögren 症候群を伴った1例. 第180回日本内科学会九州地方会, 福岡, 1983, 2, 12.
- 田原 亨, 安田正之, 江崎一子, 他: C9欠損を伴った慢性関節リウマチ (RA) の1例. 第180回日本内科学会九州地方会, 福岡, 1983, 2, 12.
- 大塚栄治, 吉田史郎, 延永 正: 抗甲状腺抗体高値を認めた慢性肝炎の1例. 第21回肝疾患治療懇話会, 佐世保, 1983, 3, 5.
- 吉田史郎, 田原 亨, 轟木 峻, 他: 慢性関節リウマチに対する寒の地獄泉の影響 (第3報) —主として内分泌学的検討—. 第48回日本温泉気候物理医学会, 白浜, 1983, 4, 12~13.
- 西園久徳, 轟木 峻, 本松利治, 他: 脳血管障害を認めた悪性関節リウマチの1例. 第181回日本内科学会九州地方会, 鹿児島, 1983, 5, 7.
- 吉岡和則, 轟木 峻, 織部元廣, 他: MCTD より SLE に移行したと思われる1症例. 第181回日本内科学会九州地方会, 鹿児島, 1983, 5, 7.
- 本松利治, 高橋 光, 名和田新, 他: ヒト血漿中 Pro-opiomelanocortin N 末端ペプチドについて. 第56回日本内分泌学会総会, 大阪, 1983, 5, 26~28.
- 延永 正, 織部元廣, 他: 慢性関節リウマチに対する Lobenzarit Disodium (CCA) の臨床的検討 —とくに他剤との併用効果について—. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 織部元廣, 安田正之, 立川啓二, 他: 悪性関節リウマチの追跡調査. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.

- ナジメジン・アハマザデー, 吉岡和則, 延永 正: 検査データによる慢性関節リウマチの活動性評価の試み. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 田原 亨, 江崎一子, 安田正之, 他: 関節リウマチの経過中に多発性筋炎と肺線維症を合併してきた1症例. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 安田正之, 轟木 峻, 織部元廣, 他: 膠原病にみられた低免疫グロブリン血症. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 轟木 峻, 神宮政男, 立川啓二, 他: RAの関節炎と活性酸素—関節液のO<sub>2</sub>産生能. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 立川啓二, 轟木 峻, 高橋 光, 他: RAにおけるT細胞サブセットの検討. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 友岡和久, 吉岡和則, 織部元廣, 他: RAに続発したアミロイドーシス12例. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 大塚栄治, 立川啓二, 織部元廣, 他: SLEに合併した急性膵炎の3例. 第27回日本リウマチ学会総会, 京都, 1983, 6, 1~2.
- 西園久徳, 安田正之, 江崎一子, 他: 著名な多クローン性IgGの増加を認めた1例. 第11回日本臨床免疫学会総会, 京都, 1983, 6, 16~18.
- 中神啓仁, 神宮政男, 延永 正, 他: 活性酸素による培養ヒト血管内皮細胞の傷害. 第4回日本炎症学会, 東京, 1983, 7, 15~16.
- 神宮政男, 立川啓二, Ahmadzadeh, N., 他: 好中球によるヒト臍帯静脈平滑筋細胞の傷害機序と免疫学的機序. 第4回日本炎症学会, 東京, 1983, 7, 15~16.
- 轟木 峻, 神宮政男, 立川啓二, 他: RA患者関節液因子による関節液好中球の活性酸素遊離. 第4回日本炎症学会, 東京, 1983, 7, 15~16.
- 安田正之: MCTDの診断基準. 厚生省特定疾患「混合性結合組織病研究」班総会, 東京, 1983, 8, 20.
- 吉岡和則, 織部元廣, 高橋 光, 他: 急死したRA 4症例の検討. 第23回九州リウマチ研究会, 福岡, 1983, 9, 10.
- 織部元廣, 吉岡和則, 立川啓二, 他: 悪性関節リウマチのステロイド療法. 第23回九州リウマチ研究会, 1983, 9, 10.
- 轟木 峻, 神宮政男, 安田正之, 他: 環軸関節炎で発症したと思われる慢性関節リウマチの1例. 第182回日本内科学会九州地方会, 佐賀, 1983, 10, 1.
- 安田正之, 延永 正: 結合組織疾患にみられる低IgA低IgM血症. 第33回日本アレルギー学会総会, 千葉, 1983, 10, 8~10.
- 本松利治, 高橋 光: Pro-opiomelanocortinのN末端ペプチドと $\beta$ -endorphinのラット脳内分布. 第10回日本内分泌学会神経内分泌分科会, 東京, 1983, 11, 3.
- 高橋 光, 本松利治, 延永 正: 絶食, 絶水のラット下垂体及び副腎 Opioid peptide. 第56回日本内分泌学会秋季大会, 東京, 1983, 11, 4~5.
- 田原 亨, 江崎一子, 安田正之, 他: 慢性関節リウマチ (RA) の経過中に多発性筋炎 (PM) を合併

- した1例。第183回日本内科学会九州地方会，長崎，1983，11，20。
- 田原 亨，轟木 峻，大塚栄治，他：胃粘膜に血管腫を認めた Osler 病の1例。第42回日本消化器病学会九州地方会，長崎，1983，12，3～4。
- 田原 亨，吉田史郎，大塚栄治，他：肝甲状腺炎症候群と思われる1症例。第22回肝疾患治療懇話会，鹿児島，1984，2，4。
- 内田悦慈，安田正之，延永 正：MPP 療法が著効を示した IgG (k) 骨髄腫の1例。第184回日本内科学会九州地方会，福岡，1984，2，18。
- 田原 亨，野中史郎，安田正之，他：ENA 抗体の変動を示した SLE + Sjögren 症候群。第184回日本内科学会九州地方会，福岡，1984，2，18。
- 立川啓二，延永 正：RA における NK 細胞の測定。第24回九州リウマチ研究会，大分，1984，3，10。
- 織部元廣，吉岡和則，延永 正：慢性関節リウマチの関節外症状と血液学的検査成績との関連について。第24回九州リウマチ研究会，大分，1984，3，10。
- 大塚栄治，田原 亨，藤井郁夫，他：RA，MRA に合併する消化性潰瘍の検討。第24回九州リウマチ研究会，大分，1984，3，10。
- 織部元廣：慢性関節リウマチと消化器病変(胃と膵病変について)。第24回九州リウマチ研究会，大分，1984，3，10。
- 神宮政男，轟木 峻，延永 正：RA 関節液における活性酸素消去酵素とミエロペルオキシダーゼに関する検討。第81回日本内科学会総会，福岡，1984，4，1～3。
- 延永 正，吉田史郎：寒冷浴と内分泌機能。第49回日本温泉気候物理医学会，鹿教湯(長野)，1984，4，24～25。
- 田原 亨，吉田史郎，延永 正：慢性関節リウマチに対する寒の地獄の影響(第4報)。第49回日本温泉気候物理医学会，鹿教湯(長野)，1984，4，24～25。
- 吉田史郎，田原 亨，延永 正：慢性関節リウマチに対する寒の地獄の影響(第5報) —総括—。第49回日本温泉気候物理医学会 鹿教湯(長野)，1984，4，24～25。
- 野中史郎，神宮政男，延永 正：肺膿瘍，四肢皮下膿瘍を併発した薬剤によると思われる汎血球減少症の1例。第185回日本内科学会九州地方会，大分，1984，5，12。
- 織部元廣，神宮政男，吉岡和則，他：培養血管内皮細胞の増殖並びにアルカリ性 R Nase 遊離に及ぼす MRA 血清の効果。第28回日本リウマチ学会総会，東京，1984，5，24～25。
- 野中史郎，安田正之，延永 正：MCTD の検査成績の特徴。第28回日本リウマチ学会総会，東京，1984，5，24～25。
- 立川啓二，神宮政男，江崎一子，他：慢性関節リウマチ患者のリンパ球幼若化現象に対する単球除去の影響について。第28回日本リウマチ学会総会，東京，1984，5，24～25。
- 大塚栄治，田原 亨，野中史郎，他：MCTD と Sjögren 症候群の関連(Sialography の所見を中心として)。第28回日本リウマチ学会総会，東京，1984，5，24～25。
- ナジメディン・アハマザデ，神宮政男，轟木 峻，他：RA 関節液中のライソゾーム酵素(NAG)と滑膜細胞。第28回日本リウマチ学会総会，東京，1984，5，24～25。

- 友岡和久, 安田正之, 江崎一子, 他: 慢性関節リウマチにおける血中免疫複合体の検出. 第28回日本リウマチ学会総会, 東京, 1984, 5, 24~25.
- 藤井郁夫, 大塚栄治, 立川啓二, 他: 慢性関節リウマチの自律神経障害. 第28回日本リウマチ学会総会, 東京, 1984, 5, 24~25.
- 江崎一子, 藤井郁夫, 立川啓二, 他: RA における抗タイプIIコラーゲン抗体の検討. 第28回日本リウマチ学会総会, 東京, 1984, 5, 24~25.
- 轟木 峻, 神宮政男, 江崎一子, 他: リウマトイド関節炎と活性酸素ーリウマチ因子の活性酸素産生に及ぼす影響一. 第5回日本炎症学会, 東京, 1984, 7, 13~14.
- 神宮政男, 轟木 峻, 立川啓二, 他: 滑膜細胞の増殖と傷害の機序. 第5回日本炎症学会, 東京, 1984, 7, 13~14.
- 延永 正, 吉田史郎: Effects of a cold bathing on rheumatoid arthritis patients. 10th International Congress of Biometeorology, 東京, 1984, 7, 26~30.
- 立川啓二, 延永 正: 成人T細胞性白血病を合併した強皮症の1例. 第25回九州リウマチ研究会, 北九州, 1984, 9, 1.
- 藤井郁夫, 延永 正: 自己免疫性溶血性貧血を合併したRAの1例. 第25回九州リウマチ研究会, 北九州, 1984, 9, 1.
- 吉岡和則, 吉田史郎, 延永 正: 高令発症SLEと思われた1例. 第25回九州リウマチ研究会, 北九州, 1984, 9, 1.
- 織部元廣, 延永 正: probable RA 例の追跡調査. 第25回九州リウマチ研究会, 北九州, 1984, 9, 1.
- 大石省一郎, 轟木 峻, 延永 正: RA と鑑別を要した Cutaneous PN の3例. 第25回九州リウマチ研究会, 北九州, 1984, 9, 1.
- 神宮政男, 轟木 峻, 本松利治, 他: Enhancement of synovial proliferation by rheumatoid synovial fluids. 第17回国際内科学会, 京都, 1984, 10, 6~13.
- 本松利治, 高橋 光, 角沖久夫: ラット脳内 Proopiomelanocortin 関連ペプチドのゲルロ過像. 第11回日本内分泌学会神経内分泌分科会, 神戸, 1984, 11, 3.
- 延永 正: 温泉療法. 第26回九州支部診療放射線技術部会, 別府, 1984, 10, 26.
- 織部元廣, 延永 正: ADL について. 第3回薬効検定シンポジウム, 免疫調節剤の薬効検定, 東京, 1984, 11, 16~17.
- 大石省一郎, 大塚栄治, 立川啓二, 他: 早期胃癌術後5年目に Microangiopathic hemolytic anemia を伴う骨髓転移で再発した1例. 第84回九州医師会医学会第一分科会内科学会(187回日本内科学会九州地方会), 熊本, 1984, 11, 18.
- 藤井郁夫, 立川啓二, 延永 正: 自己免疫性溶血性貧血を合併した慢性関節リウマチの1例. 第84回九州医師会医学会第一分科会内科学会(第187回日本内科学会九州地方会), 熊本, 1984, 11, 18.
- 徳松 誠, 立川啓二, 大塚栄治, 他: 経過中に骨髓の線維化をきたした Myelodysplastic syndrome の1症例. 第84回九州医師会医学会第一分科会内科学会(第187回日本内科学会九州地方会), 熊本, 1984, 11, 18.

- 徳松 誠：TRH 単独欠損症(疑)を合併した橋本氏病と肝硬変症の 1 例。第12回大分県内分泌同好会，大分，1984，11，30.
- 神宮政男，延永 正：活性酸素(過酸化水素)による補体 C 5 由来遊走因子産生とそれによる好中球脱感作現象。第14回日本免疫学会総会，大阪，1984，12，4.
- 徳松 誠，大塚栄治，織部元廣，他：RA 患者におけるリウマチ活動性と尿酸値。第17回尿酸研究会，東京，1985，2，2.
- 吉岡和則，織部元廣，大塚栄治，他：長期下剤使用にて発症した低カリウム血性ミオパチーの 1 例。第188回日本内科学会九州地方会，福岡，1985，2，16.
- 織部元廣，立川啓二，吉岡和則，他：特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) における Danazol の使用経験。第188回日本内科学会九州地方会，福岡，1985，2，16.
- 大石省一郎，野中史郎，立川啓二，他：悪性貧血と食道 Web を合併した RA の 1 例。第26回九州リウマチ研究会，熊本，1985，3，9.
- 徳松 誠，大塚栄治，織部元廣，他：クリプトコッカス髄膜炎を合併した SLE の 1 例。第26回九州リウマチ研究会，熊本，1985，3，9.
- 織部元廣，吉岡和則，本松利治，他： $\beta_2$ -microglobulin よりみた RA の腎機能。第26回九州リウマチ研究会，熊本，1985，3，9.
- 吉岡和則，延永 正，野上隆義，他：人工ラドン泉浴の皮膚温に及ぼす影響。第50回日本温泉気候物理医学会総会，東京，1985，4，25~26.
- 藤井郁夫，大塚栄治，本松利治，他：温泉浴の自律神経機能に及ぼす影響。第50回日本温泉気候物理医学会総会，東京，1985，4，25~26.
- 延永 正：RA の病像の変遷(会長講演)。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 神宮政男：活性酸素(シンポジウム)。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 矢永尚士，児玉泰幸，延永 正，他：膠原病の心病変診断における Holter 心電図の有用性。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 河合 忠，広瀬俊一，延永 正：免疫比濁法によるリウマトイド因子定量法の開発と基礎的検討。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 江崎一子，本松利治，神宮政男，他：抗リウマチ因子活性を示した RA 血清について。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 有富 寛，延永 正，小川暢也：156-S の慢性関節リウマチに対する薬効検定。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 有富 寛，東 威，延永 正：慢性関節リウマチの長期薬物療法とその X 線学的評価。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 東 威，菅原幸子，延永 正：早期 RA に対する金，D-P，非ス剤の長期比較臨床研究—第 4 報。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- 野中史郎，立川啓二，織部元廣，他：MCTD のリンパ球サブセットと機能。第29回日本リウマチ学会総会，福岡，1985，5，9~10.
- ナジメディン・アハマザデー，神宮政男，延永 正：慢性関節リウマチ関節液のライソゾーム酵素阻

- 害蛋白および活性酸素阻害蛋白の検討. 第29回日本リウマチ学会総会, 福岡, 1985, 5, 9~10.
- 神宮政男, 轟木 峻, 延永 正: 他の自己抗体との共存における臨床的意義. 第29回日本リウマチ学会ポストコンgressシンポジウム, 別府, 1985, 5, 11.
- Nobunaga, M., N, Ahmadzadeh., M, Shingu : Protective factors against oxygen radicals and lysosomal enzymes in rheumatoid synovial fluid. 国際リウマチ学会, オーストラリア, 1985, 5, 19~25.
- Shingu, M., M, Nobunaga : The Mechanism of growth and neutrophil-dependent injury of human synovial cells. 国際リウマチ学会, オーストラリア, 1985, 5, 19~25.
- Ezaki, I, T, Motomatsu., M, Shingu : Anti-Idiotypic antibodies against human rheumatoid factors derived from a RA patient. 国際リウマチ学会, オーストラリア, 1985, 5, 19~25.
- 友岡和久, 延永 正, 酒井好古: 膠原病における免疫複合体可溶化現象の検討. 第22回補体シンポジウム, 名古屋, 1985, 6, 27~29.
- 神宮政男, 轟木 峻, 友岡和久, 他: リウマチ因子による変性 IgG の補体活性化作用抑制. 第22回補体シンポジウム, 名古屋, 1985, 6, 27~29.
- 神宮政男, 吉岡和則, 延永 正: 好中球による血管傷害の機序. 第6回日本炎症学会, 東京, 1985, 7, 12~13.
- 吉岡和則, 織部元廣, 神宮政男, 他: 慢性関節リウマチ患者血清および好中球の血管内皮細胞への影響. 第6回日本炎症学会, 東京, 1985, 7, 12~13.
- 野中史郎, 延永 正: 診断手引きの再検討. 厚生省特定疾患混合性結合組織病 (MCTD) 調査研究班昭和60年度第1回総会, 東京, 1985, 8, 30.
- 吉岡和則, 大石省一郎, 延永 正: 多発性骨折をおこした SLE の1例. 第27回九州リウマチ研究会, 久留米, 1985, 9, 7.
- 大塚栄治, 生野英祐, 延永 正: RA とシェーグレン症候群の関連について. 第27回九州リウマチ研究会, 久留米, 1985, 9, 7.
- 生野英祐, 吉岡和則, 延永 正: RA におけるメチル B<sub>12</sub> の使用経験. 第27回九州リウマチ研究会, 久留米, 1985, 9, 7.
- 小宅和俊, 大石省一郎, 延永 正: RA における Tiopronin の使用経験. 第27回九州リウマチ研究会, 久留米, 1985, 9, 7.
- 立川啓二, 延永 正: 当科における免疫抑制剤の使用経験. 第27回九州リウマチ研究会, 久留米, 1985, 9, 7.
- 立川啓二, 大石省一郎, 大塚栄治: 特発性血小板減少性紫斑病と特発性間質性肺炎を合併した1症例. 第190回日本内科学会九州地方会, 長崎, 1985, 9, 14.
- 江崎一子, 延永 正: 免疫複合体の測定法 (シンポジウム) —補体消費能試験を中心として—. 第32回日本臨床病理学会総会, 松本市, 1985, 9, 21~23.
- 吉岡和則, 生野英祐, 大石省一郎, 他: 多発性骨折をおこした SLE の1例. 第191回日本内科学会九州地方会, 福岡, 1985, 10, 26.
- 油布祐二, 大塚栄治, 大石省一郎, 他: 特異な骨破壊像を呈した ATL の1例. 第191回日本内科学会

- 九州地方会, 福岡, 1985, 10, 26.
- 織部元廣, 立川啓二, 吉岡和則, 他: 血小板減少症に対する danazol の使用経験. 第191回日本内科学会九州地方会, 福岡, 1985, 10, 26.
- 神宮政男, 吉岡和則, 藤井郁夫, 他: 培養血管平滑筋細胞の C1q レセプターとその機能(第2報). 厚生省特定疾患系統的脈管障害調査研究班昭和60年度第2回総会, 東京, 1986, 1, 17~18.
- 友岡和久, 延永 正: MRA における C3d の検討. 厚生省特定疾患系統的脈管障害調査研究班昭和60年度第2回総会, 東京, 1986, 1, 17~18.
- 野中史郎, 江崎一子, 延永 正: UCTD の1例—特にその抗核抗体について—. 厚生省特定疾患混合性結合組織病 (MCTD) 調査研究班昭和60年度第2回総会, 東京, 1986, 2, 7.
- 野中史郎, 江崎一子, 立川啓二: MCTD のリウマチ因子. 厚生省特定疾患混合性結合組織病 (MCTD) 調査研究班昭和60年度第2回総会, 東京, 1986, 2, 7.
- 大石省一郎, 延永 正: D-Penicillamin 少量投与で急性腎不全を起こした慢性関節リウマチの1例. 第192回日本内科学会九州地方会, 福岡, 1986, 2, 8.
- 小宅和俊, 大石省一郎, 神宮政男, 他: RA に対するチオプロニンと D-ペニシラミンの効果の比較. 第28回九州リウマチ研究会, 宮崎, 1986, 3, 1.
- 大石省一郎, 小宅和俊, 立川啓二, 他: RA の骨粗鬆症と活性型ビタミン D. 第28回九州リウマチ研究会, 宮崎, 1986, 3, 1.
- 吉岡和則, 大石省一郎, 神宮政男, 他: Crohn 病を合併した RA の1例. 第28回九州リウマチ研究会, 宮崎, 1986, 3, 1.
- 神宮政男: 免疫反応と活性酸素. 第6回和漢薬研究所特別セミナー, 富山, 1986, 3, 16.
- 小宅和俊, 油布祐二, 大石省一郎, 他: SLE の精神神経症状(症例報告). 別府市医師会会員による学術講演会, 別府, 1986, 3, 20.